

第65回 維持管理研究会 議事録

1. 日次: 2016 年 6 月 23 日(木) 15:00—18:00
2. 場所: BCAA 神田オフィス
3. 出席者(敬称略) 8名
小田、國貞、小林、守護、菅谷、高橋、柳谷、中谷(記)
4. 研究内容

(1) 演習の考え方と評価について概略を説明 … 中谷

<訓練・演習の種類>

- | | |
|---------------------------|------------------------------|
| ①防災備蓄品の点検 | ⑪対策本部設置・立上げ訓練 |
| ②非常用通信機器確認 | ⑫対策本部—現地連携訓練 |
| ③自家発電設備動作確認 | ⑬代替先切替え訓練(臨時含む) |
| ④防災訓練
(避難・消火・通報・負傷者対応) | ⑭取引先連携訓練 |
| ⑤安否確認訓練 | ⑮システム切替え訓練 |
| ⑥徒歩帰宅訓練 | ⑯手作業への切替え訓練 |
| ⑦緊急参集、ろう城訓練 | ⑰在宅勤務訓練 |
| ⑧支払い訓練 | ⑱危機広報訓練 |
| ⑨データリカバリ訓練 | ⑲総合演習
(シミュレーション、ロールプレイング) |
| ⑩手順書確認(読み合わせ)〃 | (モックディザスター、DIG など) |

※企業全体の中で、防災関連と事業継続関連の訓練を組み合わせ、まずは単体訓練(ドリル)を実施しながら組織の成熟度に応じてレベルを上げていくのが良い。

<演習プログラムの考え方>

演習プログラム開発にあたっては、組織ニーズ、演習範囲、及び対象業務を明確にし、現実的かつ組織のプロセスや達成レベルに合致した内容にしなければならない。

- 演習目標を決め、許容できる達成レベルを確立しておく。
- 組織が経験しそうなインシデントと関連したシナリオを作成する。
- 通常業務への影響(中断・混乱リスク)を最小限に抑えるようにシナリオを開発する。
- 想定外インシデントも取り入れ、危機対応時の判断能力向上を図る。

<演習の評価項目>

- ・演習運営 — 演習シナリオは、今回の演習目的・目標に対して、方向性は一致していたか?
- ・設備・ドキュメント — 使用した設備機器は復旧作業に役立ったか? 不足は無いのか?
- ・事業継続 — 演習目標に対する達成レベルは、許容範囲であったか?
- ・危機対応 — 情報タイムリーに収集し、分析・共有は出来ていたか?
— 戦略立案し、優先順位(トリアージ)をつけた指示が、タイムリーに出来ているか?

※危機対応能力の評価については、数値化できないので達成度が見えづらい。

(2) 演習ガイドラインの検討 … 高橋

社内のBCP推進者向けに作成したドキュメントについて内容検討を実施した。

どのようにすれば、初心者にも分かり易くなるのか？

今回は、1.本文書の目的 ～ 3-6.手法の選択 までを協議した。

1. 本文書の目的	2
2. BCP演習の意義	2
3. 演習企画・設計の基本的な考え方	2
3-1. 演習プログラム全般の注意	3
3-2. 演習の企画・設計・運営に必要なスキル	3
3-3. 演習目的の設定	3
3-4. 演習項目の設定	4
3-4-1. 演習課題・テーマの選択	4
3-4-2. 目標の明確化	5
3-4-3. 演習課題・テーマの複合性について	5
3-5. 対象者・組織	5
3-6. 手法の選択	6
3-7. 状況設定	6
3-8. シナリオ作成	7
3-8-1. 全体としての整合性	7
3-8-2. イベント作成の考え方	7
3-9. 状況付与方法の決定	8
3-9-1. 付与の方法	8
3-9-2. 付与の手段	8
3-9-3. 付与時の指示	9
3-9-4. 付与の頻度	9
3-10. 評価方法の決定	9
3-11. 安全管理、演習停止	10
4. 演習の企画・実施・評価のステップ	10
4-1. 演習主催チームの構成	10
4-2. 現状の整理と目標の設定(趣企画)	11
4-3. 実施計画の策定(構想設計)	11
4-4. 進行設計(詳細設計)	12
4-5. 準備	12
4-6. 実施	12
4-7. 評価・改善	13
5. BCP演習の文書管理	13

※全体として、良くまとまっているが、初心者が理解するには、絵や表・グラフなどを活用し、目で見て、ある程度分かるようにした方が良いと思います。

※多くの拠点に分散しており、大変であると思いますが、初心者に理解させるには、演習を受講して全体の流れや手法を理解してもらうのが、一番ベストであると思う。

※防災や事業継続の訓練・演習の全体像を理解させ、本ガイドラインの位置づけを明確にしたら良い。

(3) 熊本地震の被災状況報告 … 守護、柳谷

被災地にある取引先を訪問した結果を支障ない範囲で説明した。

2棟あり復旧までに、A棟:4W、B棟:2W であった。建物自身は殆ど被害は無かったが、建物内の設備に大きな被害があった。(配管、天井など)

本工場は、なだらかな斜面に建築されており、A棟は盛り土で、B棟は切り土であるため、この差が揺れに大きな影響を与えたと推測される。

通常、建築業者は直ぐ来ないが、今回は自動車工業会の方が来て手配して頂き、早期に対応ができた。

以上